

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD 委員会

授業アンケートは、学生のみなさんが授業についてどのように受け止めているのかを担当教員に伝え、授業内容をより良いものにしていくことを目的としています。2015 年度前後期にそれぞれ実施された授業アンケートの結果を以下に報告します。

1. アンケート調査の目的

アンケートは以下の方法で行われています。

- (1) ゼミナール等を除いてすべての授業でアンケートを実施する。
- (2) 各授業担当者には授業後の約 10 分間をアンケート記入に当てるように伝える。
- (3) アンケートの回収は事務部門で行い、教員は集計等に関与しない。
- (4) 授業毎に結果を授業担当者に渡し、今後の対応とコメントを求める。
- (5) 学長および教授会メンバーにアンケート結果と、FD 委員会の意見を報告する。
- (6) アンケート結果をまとめ、学生に報告する。
- (7) 以上の取り組みをもとに、各種の研修を行う。

2. アンケートの結果と分析

このアンケートは 2002 年度から行われていますので、今年度で 14 回目になります。

回答率

全体では、前期で 76%、後期は 66%で、後期の方が低くなっています。これは、子ども学部の全学科、保育科ともに、各学年でも同様の結果でした。また、上位学年になると回答率が低下する傾向があります。この傾向は、例年続いており、子ども学部では、3 年生になると 70%前後の回答率となっていました。昨年度よりはやや改善傾向にありますが、今年度も上級学年ではアンケートによる授業内容の改善に大きな期待をしていない学生が多くなっている可能性が

考えられる結果です。これは、アンケート結果が授業の改善にどのようなにつながっているのかについて、学生が実感できるフィードバックの方法を探る必要があると言えるでしょう。施設の改善や教員側もアンケートによって授業内容を改善していることを学生に伝える必要も考えられます。

現在は、授業科目担当者の個別に意見を出してもらう形式で学生にフィードバックする方法を取っていますが、アンケート結果が「白梅の授業」全体にとっても必要な材料を提供していることを共通の理解とすることも検討課題です。

今年度は、アンケート項目の再検討を行いました。アンケート項目を昨年度の11項目から10項目に厳選し、授業内容をより向上させるための糸口として、学生がより良い学びが出来ているかに焦点を当てた質問としました。

質問項目は下記の10項目です。

1. この授業の到達点・目標は明確でしたか
2. この授業の成績評価の方法と基準は明確でしたか
3. あなたは準備を整えて授業に臨みましたか
4. あなたは授業内容を理解することができましたか
5. あなたを含めた教室の学生たちの授業態度は適正でしたか
6. 教員の授業の進め方は内容の理解に対する配慮がされていたか
7. 教員の出す課題や問題提起等はこの授業への関心を高めましたか
8. この授業で、新たな知識や技能等を学ぶことができましたか
9. この授業で、新たな問題意識を深めることができましたか
10. この授業で、新たな学習目標を持つことができましたか

今年もほとんどの質問項目で5段階評価の4を超えており、数値上は全体としてしっかりとした授業が行われている結果と言えます。全体平均では、子ども学部は前期で4.19、後期で4.18、保育科では、前期で4.05、後期で4.09と前期、後期による変化は見られません。また、昨年度の項目2の相対的に低い傾向であった今年度の項目4の「授業内容の理解」についても、全体では、前期で4.16、後期で4.15と4を超えています。ただし、細かく見ますと大学の3学科の1、2年生の得点が、3、4年と比較するとやや低い傾向があります。短大でも1年生の得点が、2年生より低い傾向にあります。高校から大学の授業への

接続としての初年次教育について、もう少し検討する必要があることを示唆する傾向と言えるでしょう。ただし、学年が上がるにつれて、全体の得点が上がる傾向もあり、大学の授業に慣れ、同時に学習内容の積み重ねから理解度が進むことで、アンケート項目の得点も向上していると考えれば、学びの場としての大学の役割を果たしている結果と見ることも可能でしょう。

懸念されることがあるとすれば、アンケートの回収率が2年次以降下がっていることとの関係です。回答項目の得点の低い学生が、学年が上がることで回答しなくなっている、今回の傾向が出る可能性が残されています。授業の理解度や満足度の比較的高い学生は、学年が上がってもアンケートに協力し、同時に理解度や満足度の低い学生はアンケートに協力しなくなることで、結果的に学年の進行につれて高い得点の項目が増える傾向が生まれる可能性もあるかもしれません。このアンケートの回収方法では個人を特定していませんので、あくまでも可能性の一つですが、今後の検討が必要なところと言えるでしょう。

質問項目でやや得点が低かったのが、項目3の「準備を整えて授業に臨んだか」で、全体として前期で4.06、後期で4.05でした。昨年度は項目9で「分からないことは質問したり調べたりしましたか」と質問し、この得点も低い傾向にありました。どの授業科目でも、授業時間のみで学修が完成するわけではないことを学生に理解してもらい、それを助ける方法についての指針を教員が示す必要があるのではないのでしょうか。

以上が今年度のアンケート結果の概要になります。いくつかの検討課題が示されました。次年度は特に以下の三点についての検討を進め、授業改善に役立てることとします。

- アンケートの回収率を高めるため、アンケートの回収方法の検討
- アンケート結果の活用を個別対応だけでなく、アンケート結果に基づいたFD研修内容の検討や学生へのフィードバック方法の検討
- 学生が自ら学ぶことのできる授業づくり受け身の学習から、自分自身で学びを深める力を身につける指針の検討

以上